

詩

青い芝
II

閻谷文子

キャンプのお知らせ

編
集
後
記

われらは なかまだ
手をとりて 青い芝を ふみしめて
あゝ つよい つよい
われらのなかま

昨年は種々の事情から行なわれなかつたのですが、今年はすでにキャンプ実行委員会が結成され、左記の要領で行なわることになりました。会員の皆様の参加をお待ちしております。

大変嬉しいことに皆さんから沢山の原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。皆さんの原稿をみんなのせようと貢献も多くしてみましたが、残念なことに全部のせられませんでした。

手をとりて
りかいの時をまちつづけ
あゝ／つよい／つよい

一四日
七月二日(月)二五日(火)
(三泊四日)

とか皆さんに面白く、読みやすい会報にと苦心しております。

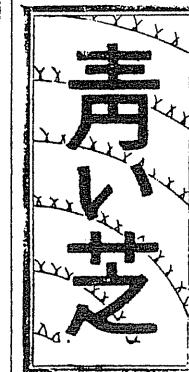
三

2

われらのなかま
道はけわしいけど
手をとりて
成果の日を見るわれら
あよ！つよくつよく
いきぬこう

城東支部長 増山 潤
四月十四日(日)に本年度第一回の
合同例会を開きました。出席者十名
支部規則・基本方針を発表した後、各
自の生い立ちを話し、清澄庭園で遊び
四時半散。

ちはこうだから。こういう生活だから。
施設がほしい。またこんな施設が…。」
と具体的に書き出されてこなければ、わ
たしたちのものだけでとどまってしまう
のではないか。よりよい会報と
なるためにも、皆で協力しましよう。
なお、原稿をお寄せ下さる際、かななら
ず原稿用紙に書いて下さい。次号は七月
になる予定です。原稿は六月中(滝沢)



四

日本國性マヒ者協会
社会福祉事業団体
伊藤先生方四二〇六九
世田谷区西田町一〇四
本会設立
伊藤 藤 京 逸

東京オリンピックを控えて都市の主要道路の拡張工事は、ますますビッチを加えているようだが、もののついでに曲りかどは出来るかぎりゆるやかな鈍角化が行われているからとて事更に前おきした由でもないが、青い芝の会そのものもまた辛い曲り角にやつて来たよう思われてならない。

員獲得の御努力また然るべき方面への勵
員頂いたのであるが、あの当時の青年は既
に子をもつお父さん今までなつておる者
もあり、去る六月二十九日の会合には、
今更のように吃驚したのである。現在全
國会员は五百有余名に及ぶとのこと、会

1963・7・20	本会議場	伊藤 京	逸	青	社会福祉事業団体
編集者	滝 泽 由 紀 子	社会福祉事業団体	社会福祉事業団体	社会福祉事業団体	社会福祉事業団体
印刷所	三誠社	三二・九四〇九	三二・九四〇九	三二・九四〇九	三二・九四〇九
責任者	伊藤 方四郎	伊藤 方四郎	伊藤 方四郎	伊藤 方四郎	伊藤 方四郎
発行所	世田谷区世田谷二丁目三四 日本活性化四二・八六九	日本活性化四二・八六九	日本活性化四二・八六九	日本活性化四二・八六九	日本活性化四二・八六九

のと信じて疑わない。

然しこれが実行の容易でないことは萬々承知であるが、と言つて徒に手を挙げて政府の出方を待つてゐるのも能がなさすぎる」と考へざるをえない。この点微力ながらも協力してあけたいと考へてゐる。先般の会合で準備委員会が出来たのだから、会そのものの成り立ちや、その運動方向も決定づけられ歩きやすいよう曲り角は随分と削られても行きましょうが一日も早く力強く一步踏みだすことをお願いしてやみません。(三八・七・八)

参議員議員 赤松常子さんとの会見

七月七日、参議員会館で赤松議員と会見。出席者は芝の会からは、高山、山北宮沢、星野、芝、賛助会の丸山さんなどの赤松さんは五名参加して下さいました。会見の主なものは、(1) 背い芝より現状をうつたえた後、(2) CP者の施設の一つとして、久留米園を拡大した形で援助したい。そのことについては国会にも働きかける。(3) 背い芝の事を出来るだけ理解してP.R.につとめる。

R. 久留米園にこの秋視察に行きたい。

一九六三年度各部役員横顔

組織統制部長

沢井義之君

若木ながら樺の木を思わせる男性である。海へ、山へ、常に欠かせない存在。

城東支部の住人でありながら、遠く城南支部の女性群の心をも獲得して居るニクイ果報者。当人は、個々のC.P.の一人立ちや何とか一人歩きをする手伝いをしてやろうと考へてのきがまえである。

今年のキーポイントの一つである部門を受持つてもビリツともさせないのも流石君よ。都会の「ひとばえ」のメカニズムに疲れたら彼と話をかわしたまえ

バス・電車・ジャズの流れるティ・ルームの中でも彼は大声で答へてくれる

其処には、大地の匂いと強靭さと青葉の風の爽やかさが

きつと現出される事であろう

社会活動部長

篠崎健次君

陳情とか請願、署名運動のようなことを中心となつてする社会活動部の部長さん。彼はその部にふさわしく理論的な頭脳と、ロジックとしてはかなりの行動力を持つている。この理論的なことは現在の役員の中では才一だらう。又、彼は曲つた事が大きらいで、物事をはつきりさせなければ気がすまない性である。

高垣聴二君

氏は厚生部長である。何の厚生かは知らない。多分廃品の更生だと思うが……

人も知る千葉の産、彼もまた大豪傑の人である。いわゆる独立恩連隊と称する連中を指揮してとうとう山賊の親分になりました(失礼、なり上つた)らしい。

もつとも彼の住居が海岸だから海賊かも知れないが。とにかく海賊でも何でも指導者になると云うことは彼にそれだけある。(口)茨城支部で夏期キャンプを八月二・三・四日に行う。その時の講師として、本部から派遣されたい。人選は会員にマッサージを奨励したい。

(口)会員の誕生日に、会員の誕生日にわざわざ来てくれる。その件だが、身連協にも同調してもらう。

六月の役員会から

六月九日、本部において役員会が開かれました。

出席者一高山、山北、石橋、高垣、沢井、尾堀、宮沢、篠崎、芝、星野、田村、芝、宮島、滝沢

一、六月のバス旅行について

尾堀さんから、人員が多くたせいか全体の統制がよくいかず、バラバラの状態であつた。次のキャンプにそなえ、充分考慮し、楽しいものにしたい。

二、会員証とバッチの件について

五月十七日の支部長会から出された事で、役員会で検討。沢井さんより報告があるといふしを付けることは、会のPRとなるし、ぜひ作るべきではないか。との意見に多少の異論はあつたが、会員証は発行することにして、バッチの件は作ることは作るが、財源の上で今すぐとはいえない。

三、会報の形式について

篠崎さんから、現在の二ヶ月に一回の会報では何かものたりない。新聞形式にして、月一回の発行に出来ないものか。これに対して滝沢さんからオ一に財政が許されない、オ二に原稿の集まりが悪い、等の意見。又、広報部からお頼いが出され、会報にはわかりやす

く、会員にわかるよう具体的に書いてもらいたい。

四、厚生部の高垣さんから

(口)P者的事を毎日密接にしている会員の親に強く訴え、共に歩んでいく必要がある。(口)茨城支部で夏期キャンプを八月二・三・四日に行う。その時の講師として、本部から派遣されたい。人選は会員にマッサージを奨励したい。

(口)会員にマッサージ師で会員の磯部さんが、凝ったみなさんの体をもみほぐすそうです。

五、社会活動部から篠崎さんに厚生大臣への陳情等、身連協の説明と、今までの経過が話された後、今まで活動の方も停滞していたようだが選舉の事や何かで出来なかつた。来る六月下旬には厚生省陳情運動、七月には国会請願と計画している。さしあたり六月下旬の陳情の件だが、身連協にも同調してもらう。

六、チャリティーショーの件について

石橋さんより、会員のリエクリエーションをかね、財源獲得のためにも行いたい。

期日 九月下旬 土曜日に開催

場所 新宿厚生年金会館

協賛 W・E・団体

ショの目的の一つに身連協の設立をアピールする。又、ショの運営資金には銀行預金から引出すことに決定した。

見たところ彼は、いかつくておつかないオジさん、といった感じ。今の本部役員の中では最年長であつてみれば、オジさんと呼ばれても仕方あるまい。そのオジさんは時に音楽を口ずさみ冗談を云つて人を笑わせることがある。

会での仕事などを見ていると彼は急進的の思想の人間のように思えるが、闘志大

学文学部で歌舞伎を専攻し、邦樂やクラシック洋楽が好きだというように元来は保守的な人間なのである。結局、本当にわれわれC.P.の問題を憂いでいるからこそ、その問題になると過激的な言動となるかも知れない。

厚生相談部長

高垣聴二君

氏は厚生部長である。何の厚生かは知らない。多分廃品の更生だと思うが……

人も知る千葉の産、彼もまた大豪傑の人である。いわゆる独立恩連隊と称する連中を指揮してとうとう山賊の親分になりました(失礼、なり上つた)らしい。

もつとも彼の住居が海岸だから海賊かも知れないが。とにかく海賊でも何でも指導者になると云うことは彼にそれだけある。人の世話をよくするという人徳があり下つた(失礼、なり上つた)らしい。

とにかく彼の辯舌は當会の中でも一きわ抜きんでている。今後ともその雄辯を活用して青い芝の利益を計つてもらいたい

もつとも彼の住居が海岸だから海賊かも知れないが。とにかく海賊でも何でも指導者と一緒に歩んでいく必要がある。(口)茨城支部で夏期キャンプを八月二・三・四日に行う。その時の講師として、本部から派遣されたい。人選は会員にマッサージを奨励したい。

(口)会員にマッサージ師で会員の磯部さんが、凝ったみなさんの体をもみほぐすそうです。

五、社会活動部から篠崎さんに厚生大臣への陳情等、身連協の説明と、今までの経過が話された後、今まで活動の方も停滞していたようだが選舉の事や何かで出来なかつた。来る六月下旬には厚生省陳情運動、七月には国会請願と計画している。さしあたり六月下旬の陳情の件だが、身連協にも同調してもらう。

六、チャリティーショーの件について

石橋さんより、会員のリエクリエーションをかね、財源獲得のためにも行いたい。

期日 九月下旬 土曜日に開催

場所 新宿厚生年金会館

協賛 W・E・団体

いものである。以上そう云う仕掛けである。切に自重して行動して頂きたいと思ふばかり。

広報宣伝部長 滝沢由紀子さん

顔立がとつゝい、きりょとした見れば見る程美人である。今まで青い芝の男性諸君がほつておくのを見ると、余りきれい過ぎて始めからあきらめているらしい。

白土さん亡き後のミス青い芝として貴重品である。

目下本部広報部長として、このPR時代の最重要職について日夜御活躍なさつていらっしゃる。

家庭に帰ればアミモノの先生として大勢のお弟子さん達の指導に当られるとか、まつたく大変なことと推察する次第。

とにかくもう何處へ出しても一人前の人である。いわゆる独立恩連隊と称する連中を指揮してとうとう山賊の親分にならつた(失礼、なり上つた)らしい。

もつとも彼の住居が海岸だから海賊かも知れないが。とにかく海賊でも何でも指導者になると云うことは彼にそれだけある。人の世話をよくするという人徳があるのだろう。

とにかく彼の辯舌は當会の中でも一きわ抜きんでている。今後ともその雄辯を活用して青い芝の利益を計つてもらいたい

規模の小さいものになつてしまふ。それに全面的に支援してくれる朝日新聞の寺田さんが、外国へ出張するので九月下旬には無理だ。財源についても各部で五割がた削減してほしい。それについて高垣さんから、各部での運動をしないわけにはいかない。資金獲得のために賛助会合をもち、相談したらどうか。

賛助会合について決定した事項
目的一會の經理を示し、寄付を依頼。
人員一賛助会員と、本部役員の会合。
日時一八月十一日午前十時より、
三、名古屋合同キャンプについて、
いづみ会が主体となり、身体障害者の生活向上を目的とするもので、本部より山北、高垣、滝沢が派遣される。日時は七月二十七日から二十九日まで。

四、教養文化部長辞任について、尾堀さんより会長宛一身上の都合により辞任するむね通達があつた。本部ではこれを受理し、和田副会長がこれに当ることになった。

五、交通問題について、和田さんから、横断歩道を渡る場合、特にわたしたちの場合危険なので、会で旗を作り、個人個人が持てたらと思うが、作成の交渉は専外部で受けもつてもら

身連協も参加。

六、更生相談部の近況、高垣さんから、いづみ会が主体となり、身体障害者の生活向上を目的とするもので、本部より山北、高垣、滝沢が派遣される。日時は七月二十七日から二十九日まで。

七、勉強会について、別記にて
八、厚生省陳情の件、詳細は別記「人教」と議論だけが陳情ではないの項。以下漢

性マヒ者はなまけ者だつた
何かを待つてゐるだけ。
他人が何かを差し出しても決して手を出そとはしない。又、自分で取つたのに誰かに叱られはしないかと警戒する。
自身ボリオであり医者である渡辺真助氏は云う。「ころぶこともあり、つまづく事もあるが、こんだら泥をはらつて立ち上り、そつとつまづいた物をどけておこう。又、ころばなくつても、つまづきそうな物は、取りのぞこう。こうするためにも七軒八起が必要だ。」
これからは私達の正しい力を一緒にし、私達から生きる権利をも奪つてはいる社会から私達の生活を取りもどそう。

六月二十九日、長い間お待ちをいたしました名簿をお届け致します。まだ何かと不備な点があるとは存じますが御寛容の程お願いします。
尚お気付きのことがありましたら事務局までお知らせ下さい。
事務局を使用して、当会親の会を中心とした脳性マヒ者父母の会が発足しました。今後我々にとつての良き理解者、並にバックボーンとして拡大して行くことを切望して止まない。そのためには当会としても出来るだけの協力をしたいと思ひます。
前号でお知らせいたチャリティショードは種々の面で難行している状態。金庫の中は空っぽとなり何とか早く解決しなければと思つています。
会費その他、会員皆さまのより一層の御協力をお願いする次第です。

いつの間にか七月も半になつてしまつた今日、ようやく事務局の固いイスにも坐りなれた感じがしている。

事務局便り

人数と議論だけが陳情ではない
社会活動部長 篠崎健次

◎ 小規模が大規模に
六月九日の役員会に、厚生省陳情を提案し、承認をみた。その骨子は、前会長の厚相にあてた質問書についての回答

二、今年度計画案中の身障者対策が、縮小して実施された事情

三、来年度の身障者に対する計画を当局から聞くものとし、一応、
人の予定とし、その他は部長一任となつた。たゞこの席で会長から、身連協も一致した行動はそれないのかとの質問があり、私は「身連協は準備段階でまだ組織としての行動の時期ではない」と答えた。しかし十二日にも事務局長から同様の意見が出、それについては「この陳情は昨年の行動に続くもので、青い芝幹部の中にこのような意見もあるため、一応、身連協の委員に連絡してみたが、やはり私と同説であった。その上、十五日に会長と身連協参加の肢体力自由児父母の会長有富氏との会談が、少なくも行動については、意見の一一致をみなかつたので、会の内部の気持を高めるためにも、外部の身連協を強めるためにも、方針を変える判断をとつたのである。

そこで高山会長・山北副会長と連絡し結果、この陳情に参加することを全員に呼び掛けるものとし、期日は二十八日とした。これは七月から慈善興行の準備に入るため、六月中に行なう必要があるが二十五日であり期日に遅れて到着したものがかなりあつた模様である。更に慈善興行の後援団体が、陳情のような過激な行動をする所には援助しないといったところだと、事務局長は苦惱の様子であつたが、陳情後に善処することで諒解した。

二十八日は炎天続きの中でも最も暑い日だった。参加人員約二十名。局議と会で、更生課の首脳は最初いずれも不在で、三度交渉して山崎課長補佐と三十分間話すこととなつた。会談に加つたのは、高山・山北・篠崎・高垣・滝沢・鶴邦。

一、身障者接収施設 重度者の家庭復帰（家で暮し易くすること）を目的とする。
期間は五箇年。

二、身障者作業施設 両脚切断のように細かい仕事の出来ない人に、職をあた

えて特に期限をつけることはない。聴き得たに過ぎず、陳情の一については、細部にこだわつて主眼點に触れず、言葉の行き違いから、山崎氏が赤くなつて怒る場面もあり、二については全く話す余裕がなく、一応七月下旬に再会することで打切つた。その後食堂で検討したが、とにかく末的なものが多く、本質に触れても感情的な面が混る不首尾さが目立つた。

◎ 教えられたもの知つたこと 部員はよく動いてくれたし、会員にも部外者にも協力は多かつたが、行動全体に混乱のあつたことは、部長としての私の責任である。方針変更から実行までの期間に無理があつたこと、交渉に統制が不充分であつたことが考えられるが、何よりも反省する点は、交渉内容を事前に討議することが不充分であつた所にある。まず仲間に分らす努力が根本なのだ。

陳情とは理窟をこねて相手を凹ませるために、人數を駆り出すのではない。自分の立場を知り、参加する意義を悟ることである。そうした全体の把握に欠けていた私は、自らを鍛打つて、今後を戒めて行きたい。こゝで気付く所は、慈善興行、身連協に絡ませて、陳情のような直接行動を牽制しようとする動きが、外から伝つて來ていることである。しかも

久留米園スター紹介

寺田 純一

久留米園は三十人ばかりの小さな施設ですが、入っている人達は他の施設（厚生施設や授産施設）にはとても入れないようなものばかりです。大部分が脳性マヒで二重障害の人達もかなりいます。それらの人達も久留米園では毎日訓練や勉強をやっています。ここで二三人の人物に登場ねがいましょう。T君は今二十四才、ほりのふかい顔をしたい男で久留米園の人気者です。入園したのは今から丁度二年前でしたが、家にいたころはまつた歩けず手おし車に乗つて二丁拳銃か何かふりまわしていばつっていました。始終かんしやくをおこしたり、物をねだつたりして家人達をこまらせていました。（子供のころから全員つかわなかつたために足の筋肉はほそくなっています。小さい時から十分訓練すればもつとよくなつていたはずです）矯正のいたみのために毎夜泣いて同じ部屋でめんどうを

されなかつたので訓練すれば勤くようなどろまで、動かなくなり、からだ全体が、必要以上に衰弱してしまつている場合が多いようです。素人の障害者を職員に使つてある施設でも、ある程度出来る訓練が医者や看護婦など、いづつた資格を持つた専門職員を大勢かゝえた病院では殆んど行なわれないでいるといふわけです。これは障害者、ことに重度の者のためには、障害者専門の施設が絶対に必要であり一般の病院はあまり役に立つていませんといふことを示しているように思われます。病院は、普通の病人を対象としているので、重度の障害者がそこに放り込まれた場合完全に孤立することになります。そこで治療や訓練が行なわれるとしてもそれは病院のスケジュールの一部として行なわれるだけであつて、本人の日常生活動作や精神活動とは何の結びつきもないのです。又、一般的の家庭でも障害者はケガをしてはいけないとか、見つともないと可愛そうだと、きたいます。障害者同志の集団ならば、このような制約がある程度取り除かれ、人間形成や体の訓練が日常生活と一体になつて進むことができるのではないかでしょう。くるめ園が障害者ばかりを職員として使つていることの意義は、こんなところがあるようです。

「リクレエーションを想う」

芝 隆

六月二日（月）、会の恒例のバスによる相模湖への旅行が行なされました。

今回のバス旅行は、今まで会の行なつてきましたところリクレエーションとしては規模の大きなものでした。なにより、大型の観光バスを二台も貸切るという、思いきつた方法を取つて、多くの会員が愉しみを一同に味わうことを目的にしたからです。当日はリクレエーション部員が全力を尽して準備に当つて下さいましたおかげで、百名近い多数の参加者がいたおかけで、百名近い多数の参加者がれしく思つております。

さて、当日のバス旅行の模様をすこし詳しく書いてみるつもりです。その日の天候はあまり行楽日和とは云えず、どんよりといまにも雨滴が落ちて来そうな嫌な運行でした。新宿の小田急デパートの前へ、五反田駅から合流した、オーラー号と新宿に待つて、オーラー号は定刻八時半、目的地相模湖に向つて出発しました。がしかし、バスに乗り込むまでに、大分時間を費やして、右往左往する様は端から見た場合、あまり良い感じのものではないと思ひます。往路のバスの中では、バスガイド娘の歯切れの好いなめらかな案内と、会員一同のあまり調子の良くない、どこか一ヶ所

見ていた職員の人をなやましていた事もありますが、今では大分成長しました。毎日勉強をし日記をつけています。手続きはなかなかきようで、ギターをひくし、字を書くのも上手です。歌よう曲が大きで始終自分でレコードをかけて聞いています。言語障害があるにもかかわらず、歌う事もなかなか達者なものです。しかし今でも正月など家に帰るとほとんどじつとしていて食事なども人の手で食べさせてもらうようです。

○さんは四十五才ぐらいのおばさんで、T君を入れてくれる施設はどこにもなつてしまつた。歩けず手おし車をこまらせていました。姉さんが日本中の施設を（精薄施設や精神病院までふくめて）めぐり歩いたからはギブス矯正をし、アバラートをつけて松葉づえで歩くようになりました。（年よりも負けていますが）○さんは一般に早く歩けるようですが、舌がみじかいために言葉がしゃべれません。よれが出來ますが、そのほかの、着替えや食べ物を口にはこんだりといふような動作は全然できないようです。ヒツの感覚も、かなりにぶいらしい。食事の時は職員の人に食べさせてもらつていますが、匂むことも相當困難なようです。味がわかるのかどうか、疑問だという人もあります。お餅が大好きです。足は比較的達者で走ることも出来ます。この人はくるめ園に来る前には何年間も精神病院の片隅に寝かされたまゝ、目一つ動かさなかつたそうです。和田先生が、診察してみて

「この人は歩ける筈だ」というわけで立たしてみたら歩いたという話です。入園分では三十才だといつて、精神年令は四才程度と言われています。全然歩けません。手は幾らか利き、ご飯などは、自分で食べる事ができますが、全員と一緒に聞かれなくなりました。この人は、子供の頃は達者に歩いて、小学二年生までは、ランドセルを背負つて毎日学校へ通つていたそうです。その後訓練をして、なかなかたために、次才に歩けなくなりました。この人は、子供の頃は達者に歩いて、小学二年生までは、ランドセルを背負つて毎日学校のサイレン最近ではこの泣き声はあまり聞かれなくなりました。この人は、子供の頃は達者に歩いて、小学二年生までは、ランドセルを背負つて毎日学校へ通つていたそうです。その後訓練をして、一人では出来ないようになつてしまつたのです。

くるめ園には、手も足も全く利かず、寝たつきりの人が三人います。このようないつて、眼下に細長く横たわつた、河川の上流に白く眼に映えて、相模湖が姿を現わしました。バスは予定よりすこし早めに相模湖に着き、会員は責任者より二三の注意がなされた後、近くの大食堂でバスに揺れた、空っぽのお腹を目を白黒させながら、満たしている姿はほほえましく、人間の本來の動物的な一面がうかがえたものです。食事もそこそこに皆な思い思ひに好きな場所を選んで散つて行きました。

それにしても、帰えりの集合時間が来ても、姿を見せないで、どこかわからない場所でひとりだけで、のん気に買い物を愉しんでいる様は、集団で行動を取る場合には、必ず統制が乱れてしまうということを心にとめておいてもらいたいのです。帰路は中津渋谷通り一路、新宿を目指して、なんの事故も起さず、全員無事に帰えり着いたことは、本当によかったです。参加者の中に重度の方が共に愉しみを味わえたのは、何よりも一番喜ばしいことではないかと思いました。では、また来年のリクレエーションを楽しみに待つことにいたしましょう。

その発展を支えてきたもの

池田首相のいう「大國日本」はやオーバーであるとしても、一応文明國の水

造に達している國々の仲間において国を教

えることに異論はないと思う。ところで、

そうした文明國の社会福祉制度はどうな

つているのか、その実態は一。そして、

その中で身体障害者はことはどうなつて

いるかといふことがわれわれ関心事で

あつて、さらに細かく分ければ、身体障

害者のリハビリテーション、職業更生が

どのように行われているか O.P.への対策

は一といふことが問題になる。

先日朝日ジャーナル五月十二日号に「

オ三の医学」の開幕、といふ見出しだり

ハビリテーションについての記事があつ

ていた。それによると、病氣で苦しむ患

者の命を救うこと、これが治療、つまり

オ一の医学。次に病氣が発生してくる下

地を取り去ること、それが予防、つまり

オ二の医学。そして次にはその患者が健

康になり、日常生活を続け、社会の一員

としてひとり立ちができるようになると

が必要となる。そこには治療や予防とは

また違つたひとつの医療体系をもつた世

界がある。それがハビリテーション、

オ三の医学、といふわけである。

ところがこの分野についてはわれわれが

オ三の医学はまったく空白だつた。いや現在でも空白かもしれない。『アサヒジャーナル』は指摘している。リハビリテーションに欠くことのできない、P.T.

(Physical Therapist) 機能療法士 (Occupational Therapist) 職能療法士

Therapist 言語治療士の専門家の

不足、その専門家を養成する機関の不備

は、この分野が如何に遅れていたかを物語つており、歐米はもとより東南アジア

でさえインド五校、パキスタン、インドネシア各一校の専門家を養成する学校が

あるのにわが国ではようやくこんど一つ

生れたというのが現状である。

こうした立派れについては、今さらと

やかくいつまでもほじまらない。少くとも

遅れをとりもどそうという方向に進んで

いる気配はあることだし、われわれの努

力も当然そこに集中されなければならな

い。しかし、ここで考えたいことは、わ

が国の医学は世界的にもその水準の高い

ことを認められているのに、なぜリハビ

リテーションについてはこうも遅れをと

つたのかということである。私は学問的

なことについては詳しく述べないが、一

つの要素として人びとの関心、理解、協

力ということが大きな力になることを指

摘したいのである。身体障害者が更生し

て社会に復帰することを心から願い、そのため積極的に働く人々が多くれば多いほど、その分野の発展充実が國の諸政策、民間事業の上にも現れてくることは当然であろう。

歐米において障害者福祉のいろいろな面がわが國のそれと較べて數段進んでい

ることは事実である。例えば、O.P.の更

生事業にても、米國ではO.P.だけの職業更生に関する専門機関、施設があり、多くの人びとに職業訓練を施し、厳密な評価を行ない、庇護作業所や一般の職場に送り込んでいる。そして、それぞれの

施設には、専門教育を受けた社会事業家、心理学者、O.T.、P.T.、など充実したスタッフが勤めており、州政府の職業更生

局の後援による調査、研究が大学の専門家グループの手によって行われるなど、

積極的な施策がなされている。勿論、人

力も当然そこに集中されなければならな

い。しかし、ここで考えたいことは、わ

が国の医学は世界的にもその水準の高い

ことを認められているのに、なぜリハビ

リテーションについてはこうも遅れをと

つたのかということである。私は学問的

なことについては詳しく述べないが、一

つの要素として人びとの関心、理解、協

力ということが大きな力になることを指

摘したいのである。身体障害者が更生し

て社会に復帰することを心から願い、そのため積極的に働く人々が多くければ多いほど、その分野の発展充実が國の諸政策、民間事業の上にも現れてくることは当然であろう。

歐米において障害者福祉のいろいろな面がわが國のそれと較べて數段進んでい

ることは事実である。例えば、O.P.の更

生事業にても、米國ではO.P.だけの職業更生に関する専門機関、施設があり、多くの人びとに職業訓練を施し、厳密な評価を行ない、庇護作業所や一般の職場に送り込んでいる。そして、それぞれの

施設には、専門教育を受けた社会事業家、心理学者、O.T.、P.T.、など充実したスタッフが勤めており、州政府の職業更生

局の後援による調査、研究が大学の専門家グループの手によって行われるなど、

積極的な施策がなされている。勿論、人

力も当然そこに集中されなければならな

い。しかし、ここで考えたいことは、わ

が国の医学は世界的にもその水準の高い

ことを認められているのに、なぜリハビ

リテーションについてはこうも遅れをと

つたのかということである。私は学問的

なことについては詳しく述べないが、一

つの要素として人びとの関心、理解、協

力ということが大きな力になることを指

摘したいのである。身体障害者が更生し

不足、その専門家を養成する機関の不備

は、この分野が如何に遅れていたかを物語つており、歐米はもとより東南アジア

でさえインド五校、パキスタン、インドネシア各一校の専門家を養成する学校が

あるのにわが国ではようやくこんど一つ

生れたというのが現状である。

こうした立派れについては、今さらと

やかくいつまでもほじまらない。少くとも

遅れをとりもどそうという方向に進んで

いる気配はあることだし、われわれの努

力も当然そこに集中されなければならな

い。しかし、ここで考えたいことは、わ

が国の医学は世界的にもその水準の高い

ことを認められているのに、なぜリハビ

リテーションについてはこうも遅れをと

つたのかということである。私は学問的

なことについては詳しく述べないが、一

つの要素として人びとの関心、理解、協

力ということが大きな力になることを指

摘したいのである。身体障害者が更生し

て社会に復帰することを心から願い、そのため積極的に働く人々が多くければ多いほど、その分野の発展充実が國の諸政策、民間事業の上にも現れてくることは当然であろう。

歐米において障害者福祉のいろいろな面がわが國のそれと較べて數段進んでい

ることは事実である。例えば、O.P.の更

生事業にても、米國ではO.P.だけの職業更生に関する専門機関、施設があり、多くの人びとに職業訓練を施し、厳密な評価を行ない、庇護作業所や一般の職場に送り込んでいる。そして、それぞれの

施設には、専門教育を受けた社会事業家、心理学者、O.T.、P.T.、など充実したスタッフが勤めており、州政府の職業更生

局の後援による調査、研究が大学の専門家グループの手によって行われるなど、

積極的な施策がなされている。勿論、人

力も当然そこに集中されなければならな

い。しかし、ここで考えたいことは、わ

が国の医学は世界的にもその水準の高い

ことを認められているのに、なぜリハビ

リテーションについてはこうも遅れをと

つたのかということである。私は学問的

なことについては詳しく述べないが、一

つの要素として人びとの関心、理解、協

力ということが大きな力になることを指

摘したいのである。身体障害者が更生し

して脳マ以外の障害者（背臍性小兒マビ）も入れようと云う声があります。

こう云う人達は青い芝を立派な会にして立派にすると云う事はどう云う事でしようと考えてゐるのだと云う事は立派な会にして立派にすると云う事はどう云う事でしようか、まず事務がきちんと行われている事、本部から会員に連絡が充分に行き届いてる事、リクリエーションなどの団体行動がスムースに行われる事、事務所が会員の相談を間違いく早く処理出来る事、こう云うことをさして会が立派になつたと云うのではないでしようか。しかし、立派な会と云うのはこう云う外見上の事だけではないと思います。なぜ会を作るのか、また会に入るのか、と云うとやはり一人一人が自分の考え方なり行動を進一步させたらではないでしようか。つまり自分にとつて何らかの利益がなければ会員にならないでしよう。

現在障害者の会は沢山あります。その中には健康な人と障害者が一緒に作つている会もあります。しかし、そういう会は現在の青い芝とは目的もやり方も当然ないといつた風潮があるが、政治ほどよい面でも悪い面でも人の心、物の考へ方と密接につながつてゐるものではないと思うのである。われわれは一人でも多くの人が実験を知り、理解し、何らかの行動を起すことを期待しながら、われわれ自身の努力を続けていきたいと願つてゐる。（日本クリリスト教奉仕団副総主事）

私達の広場

田村公一

热心な会員の一部に青い芝の正会員と

一般的の人達に努力してもらうようにするのがいいのではないか。人間は色々な体験をしないと進歩しないと考へてゐるのだと云ひます。会を立派にすると云う事はどう云う事でしようか、まず事務がきちんと行われている事、本部から会員に連絡が充分に行き届いてる事、リクリエーションなどの団体行動がスムースに行われる事、事務所が会員の相談を間違いく早く処理出来る事、こう云うことをさして会が立派になつたと云うのではないでしようか。しかし、立派な会と云うのはこう云う外見上の事だけではないと思います。なぜ会を作るのか、また会に入るのか、と云うとやはり一人一人が自分の考え方なり行動を進一步させたらではないでしようか。つまり自分にとつて何らかの利益がなければ会員にならないでしよう。

青い芝としては私達の特殊な問題を私達に出来るようやり方で一步でも向上させ、私達の意見で賛助会員の方々とか

さへ、私達の責任でやると云う事をしつかえられる事は間違いないありません。

青い芝としては私達の特殊な問題を私達に移すではなく、参考意見として取扱い上げ正会員で充分な検討をして交通安全のため正会員一人一人が自分達の会の責任でやると云う事をしつかえられる事は間違いない

更生相談部の対応

高垣町二

小生最近二ヶ月ばかり最も重度の者の相談を持つて来られてしましました。

Aの方は進行性筋肉イントロダクションで二十五才の女性でした。

Bは多発性関節リューマチで三十二才の男性でした。

どちらも青い芝の会員で(正会員)でした。

これは今迄の医者の診断でCOPと言われて居るからです。

A,B共に日常動作不能であり、Aは両親がなく妹と生活して居り、Bは母(六十一才)と二人暮してありました。

Aの病気(障害)は一日一日と進行し重くなつていくのですが、今のところ現在の医学では治療の方法がない障害なのです。

先ず足がマヒし次に手でその内全身が動かなくなり、最後に肺筋がマヒし息の根が止まりおしまいと言う病気なですが、全く手のほどこし様がないのです。

悪化する時は解ついてもどうにも出来ないで見ていなければならぬのは身をけずられる様なつらさです。それにこの障害は素質遺伝らしくその兄弟全部が患者が非常に多いのです。

Bの障害は体中の関節が節くれ立つて固まってしまう障害です。原因は結核性毒性、その他、と言われて居ります。

在の医学では治療の方法がない障害なのです。

先ず足がマヒし次に手でその内全身が動かなくなり、最後に肺筋がマヒし息の根が止まりおしまいと言う病気なですが、全く手のほどこし様がないのです。

悪化する時は解ついてもどうにも出来ないで見ていなければならぬのは身をけずられる様なつらさです。それにこの障害は素質遺伝らしくその兄弟全部が患者が非常に多いのです。

Bの障害は体中の関節が節くれ立つて固まってしまう障害です。原因は結核性毒性、その他、と言われて居ります。

川崎支部からお願ひ

す、もつばら、本部役員及び支部役員の意見の交換に終始したことは、あらためて考えなくてはならないことです。例会の形式を充分検討しなくては、支部会員の結束をはかるとはできないように思われました。そのあと、約一時間ぐらい、愉悦しい遊びをなごやかのうちに行ない、その遊びの一つを紹介すると、「なぞなぞ」で「土砂くずれ」とかけて「青い芝」と解く、そのところは「なかなかまとめていい」というけつ作ができました。

当日足の大変不自由なTさんとNさんがわざわざ車で参加してください、本当に心から感激するとともに、他の歩行にはさして支障のない方々の顔が少なかつたことが残念になりました。約五時半頃、笑顔でそれぞれ家路へと散つて行きました。尚、当日、いろいろとお手伝いして下さいました。奉仕団の方々と、わざわざ祝電を下さいました、世田谷の谷岡久様には、ここであらためてお祝申し上げます。

「S記」

記念号原稿募集

青い芝も六年目を迎えました。

それにちなみ、記念号を発刊したく思っています。

みなさんの生活体験、楽しかったことと苦しかったこと、悲しかった事等何件か所へ送つて下さい。

川崎支部もおかげ様で会員が二十六名から、いつぶん八十名となりました。今までの川崎支部とちがつて大きな支部となりました。そこで支部の運営を他の支部にまけない、がつかりとした運営をして支部活動をして行きたいと思いまます。それは皆様一人一人の力がなければいけません。そこで支部では皆様の御声をお待ちして居ります。支部では非やつてほしい事、御希望、意見などと申します。それに新宿区弁天町四二、春陽寮内な事でもけつこうですからぜひ支部宅へ御投書下さい役員一同はりきつて皆様の御投書をお待ちして居ります。それから難になりますので是非お支払い下さる事をお願い申します。なお支部の役員が伺いますので、その時にお支払い下さいとも結構です。新会員の方々にはまだ入会金をいただいていない方も居りますので、これらも役員がお伺いいたしますので、御面倒でもお支払い下さい。なにとぞ御協力下さる事を心からお願い申し上げます。なお、家庭の事情はどうしてもお支払い出来ない方には本部と支部でなんとか免除いたしますので申し入れ下さい。

青い芝の会員、川崎市桜木町二ノ五〇〇事務所へ送つて下さい。

「城南支部例会」

六月十六日(日)午後一時半より、品川区

大井の賛助会員の丸山多美様の御宅で、本年度最初の城南支部例会を開きました。

会は、まず自己紹介から始められました。

が、恥しい情けないかな、支部会員が

もつとも多数いる城南支部の会員のわざか一〇バーセントにも達しない、正会員が十名といひざびじい状態で、あとの残りの出席者は本部役員及び他支部の会員

といふ、あまりいただけない珍現象のうらまして手術などは考へられないのです。

医学が比較的進歩して居る我が日本では、現状はこの様なもので、この手術で

出来る病院(医者)は小生の知る所では一ヶ所しかないのです。それは国立センター、の医者だけなのです。

その国立センターでは、実はもうその様に何回も手術を要する患者は居なくなつたとして三ヶ月以上手術(治療)に時間がかかる者は入所をシヤターアウトしてしまつたのです。これは厚生省の考えなのです。

青い芝の皆さん、この様な患者は、青い芝の外に多くいるのです。この患者達を幸にするのはどうしたら良いいのでしょうか。皆さんで考へて見て下さい。いつも重慶の人たちを救う事、それは軽度者にとつても救われる幸せなことではないでしょうか。勉強の一つとしてみんなで考えてみましょう。

(編集部)

そして、本年度の支部の方針として、身近かな必要と思われる問題を確實にじっくり施行してゆこうということになり、まずオーネ重慶会員宅を二人くらいでグループをつくり訪問して、生活記録をまとめあげること。オーネに支部の組織を強化すること。結局この二つの問題を堅実に時間をかけて行なつてゆくことになりました。当日のもつとも重要なテーマであつた「本部及び支部に対する希望」については、正会員の方々からは期待したほどの意見が残念ながら聞くことができ

川崎支部お知らせ

去る五月三日地方支部で初の青い芝の会チャリティーショーを川崎支部で開きました。大成功とまでいきませんが八分どおり成功致しました。ショードを開いた為の事を理解してくださいましたし、又、我々の事もいくらか理解してもらへたと思ひます。金鏡面ではマイナスでしたがそういつた事で大いにプラスだったと思ひます。この事を皆様にわかつていただきたいと思います。さて、川崎の会員の皆様にはジエータイの方と連絡がくいちがい当日になつて車がかりられなくなりせつかく楽しみにしていたショードを見られなくなつてしまい誠に申しわけありませんでした。紙上でおわびをお許下さい。又これにこりす、なにかのおりは御参加下さる様お願ひ致します。

その他の協力者の方々がお忙な方たち入出と程陳たなしにしろ。つづいてここにござります。本當にあらゆる外の者達の手は行はれました。中庭で原稿を依頼して書いて頂きました。

暑さにうだつてしまいそうな毎日ですね。勉強会にそなえ本号はみんなで考えられるような記事を一二点拾つてのせみました。頭をつき合わせて本当の私達の幸の道をチルチル。ミチルになつて探そうではありませんか。

又本會顧問であり、脳性マヒ者父母の会準備委員長であられる伊藤先生にお忙しい中で原稿を依頼して書いて頂きました。

よりよき皆さんの会報となるよう次回三十号は九月中旬の予定 滝沢

お礼

先に事務局便りでお知らせ致しました朝日新聞「読者のひろば」を通じて二三の方及び会員の田中作子さんより多額の御寄附を頂きました。

世間はバカンスとさわがれている折皆さんはないかとですか。この暑さをふきとばす様に左記の通り勉強会を開きます。皆さんあるつて御参加下さい。

記

日時 八月廿五日(オ四日曜)午後一時より四時まで

場所 本部にて

勉強内容 青い芝 社会問題

編集後記

電気のお医者さん

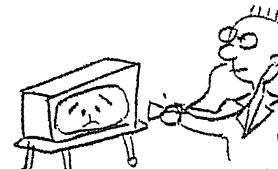
テレビがうつらない！

洗濯機がまわらない！

こんな時には、すぐ次のナンバーにお電話下さい。電気のお医者さんがかけつけます。

389-1379

たつたこれだけのことばなど
ご遠慮にはおよびません たゞち K



杉並区大宮前4ノ518
進光電気 代表者 橋尾博一

